

# 不正から日本の安全・安心を守るために ～税関職員へのインタビュー～

海外から帰国したとき、かっこいい制服を身にまとい、手荷物などを検査する税関職員のことを皆さんも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。長時間のフライトで疲れた身体をいたわるように暖かく声をかけてくれる対応に日本を感じてほっとした方も多いと思います。

今号では羽田空港に赴き、今年150周年を迎える税関で勤務する東京税関羽田税関支署の恩穂<sup>おしほ</sup>井 修平 監視官からお話を伺いました。

月報編集部

## 安全・安心な社会の実現のために 最前線で働く

—— 税関を目指した動機やきっかけになった出来事を教えてください。

私はもともと民間企業に勤めていたのですが、自分自身の仕事に対し、より自信を深めて働きたいと考えるようになり、そこから次第に国民の皆さんのために働きたいと思い公務員を目指すようになりました。そして、国家公務員の官庁合同業務説明会で、税関は安全・安心な社会の実現のために頑張っているんだという、とても熱意のこもった話をきいて、「ここなら自分の「国民の皆さんのために働きたい」という想いも目に見える形で実現できると感じました。税関という職業はこの時初めて知ったのですが、税関の、誠実に行動し社会からの信頼と期待に応えるという理念にも強く共感できたということもあり、税関を目指したいと思いました。

また、税関の仕事が貿易取引である輸出入全般に幅広く関われる仕事というところも魅力だと感じました。

—— 税関の仕事はどのようなものなのか教えてください。

まず、税関には三つの使命があります。  
①安全・安心な社会の実現、②関税などの適正・公平な徴収、③貿易の円滑化の推進の三つです。この三つの使命を実現するために税関内のいろいろな部門が連携して働いています。税関の仕事としてイメージしやすいのは国際空港で外国から来た旅客に対する手荷物検査だと思うのですが、それ以外にも航空貨物にかかる関税を適正かつ公平に徴収する仕事や、貿易の円滑化に携わる仕事など様々な業務があります。

—— これまで経験した仕事の内容を教えてください。

今は羽田空港にある東京税関羽田税関支署の旅具通関部門で働いています。ここは今でこそ六か所目の配属先ですが、実は私が東京税関に採用されて一番最初の配属先も、この羽田税関支署の旅具通関部門なのです。税関では外国から来た旅客の携帯品のことを旅具というのですが、私はその旅具に関する仕事をしています。主な仕事は覚醒剤や大麻などの不正薬物が、携帯品で

ある手荷物に隠匿されていないか、身近への隠匿はないかを確認すると同時に、高価な商品を購入しているにもかかわらずそのことを申告せず不正に関税等の税金を免れようとしていないかということも踏まえ、旅客の方々に対して旅具検査を行うことを業務としてあたっています。

それから、東京税関東京外郵出張所で国際郵便物の通関・検査の仕事をしていたことがあります。世界中から毎日、普通の封筒から小包まで、多種多様な国際郵便物が届くのですが、その中に覚醒剤などの不正薬物が隠匿されていないか、課税すべきものが入っていないかを検査したり、輸出入申告の審査をするなど幅広い業務に対応していました。膨大な量の国際郵便物が呈示される中から、不審なものを自分で取捨選



おしほい 恩穂井 修平さん

択し、開披検査をして不正薬物などの発見に努めていました。

—— 旅具通関も国際郵便物の通関も、不正薬物が隠されているものなどを見つければ非常に難しいと思います。見分けるコツはあるのでしょうか。

過去の摘発事例を確認し全て頭に入れています。旅具通関の場合は同様の手口が繰り返されることもありますし、国際郵便物の通関の場合も、郵便物の外装が過去の摘発事例と似たものが輸入されてくることもあります。そのような摘発事例を踏まえ、様々な可能性を頭に入れて業務にあたります。別の新たな手法で密輸を行うとすればどのような手法で狙ってくるかなどを自身でしっかりと考えながら検査をしていくことがコツなのかなと思います。

—— 摘発事例を見てとのことですが、どのように摘発事例を頭に入れているのでしょうか。

密輸摘発事案が発生したときは必ず部門間で共有しますので、その時に詳細を確認することができますし、それ以外の摘発事

例についても職員どうしで情報を共有できるようにまとめられていることから、隠匿手口に関する情報などは常にアップデートした状態で検査に臨んでいます。旅具通関部門や国際郵便物の通関審査・検査を行う場合、基本的に一人で行うのですが、税関は業務内容が多岐にわたることから、様々な研修・執務参考資料が充実していて、安心して業務に臨むことができます。

### 税関の対応が日本のイメージを決める

—— 業務を行う上で留意していることはありますか。

旅具通関業務では、旅客に対して誠実な対応をすることを特に留意しています。海外から来る旅客の大半は、税関職員が日本において最初に接する日本人ということになります。これは、我々税関職員の行動次第で日本に対する印象の良し悪しが決まってくると思っていますので、言葉遣いなど失礼のないようにしたり、笑顔を交えながら誠実な対応をしています。ただ、ほとんどは善良な方々なのですが、残念ながら中には覚醒剤や大麻などの輸入してはならな

いものとされている不正薬物を密輸しようと企てる人たちもいます。そういう人を相手にするときは苦勞することもありますが、毅然とした態度で屈することなく対応しています。

このように、旅具通関業務では相手とのコミュニケーションが非常に大切になります。そして、自信を持ってコミュニケーションを取るためには旅具通関における知識の向上が欠かせません。旅客の手荷物を開披するわけですから、受け答えに曖昧な部分があつてはいけませんし、なにしろ密輸を企てようとしている人たちに對しても、こちらのほうが旅具通関に関する知識が豊富であることで、優位に立って話を進めることができるようになります。

—— コミュニケーションが非常に大切とのことですが、いろいろな国籍の人たちを相手にどのようにコミュニケーションを取っているのでしょうか。

当たり前ですが、旅客の方が使用する言語はその国によって異なるので大変です。ですが、税関では新規採用職員研修時に税関英会話を学習しますし、業務の隙間時間にも英語の勉強をすることは可能です。ま

た、税関では中国語などの語学研修も実施しており、このような語学研修を受講した検査官と共に旅客対応を行うなど、臨機応変に対応します。語学対応できる検査官がいない場合でも、身振り手振りを交えてしっかりと伝えるべきことを伝えるようにしています。

ここ数年は新型コロナウイルスへの対応として、旅客もマスクをしているので、お互いの表情がわかりにくかったり言葉が聞き取りにくいなど、違った意味でのコミュニケーションの難しさも出てきています。表情がわかるように目を意識したり、声の



旅具通関検査の様子

トーンを変えてみるなど、今まで以上にコミュニケーションに神経を使っています。

—— これまでの主な業務経験として旅具通関業務と国際郵便物の通関業務の二か所での経験があるとのことですが、互いの経験を活かせるところはありますか。

旅具通関部門では旅客と目の前で対することから水際取締りに対する意識が非常に強くなります。加えてその場その場で状況が変わり、的確且つ迅速な判断力・対応力も求められることから、自ずとそれらの能力が鍛えられることとなります。他方、国際郵便物の通関は対人ではなく膨大な量の郵便物ということもあり、スピード感はもちろん、正確性も重要となってきます。国際郵便物の通関業務では食品から機械部品まで多種多様な郵便物が日本に輸入されてくることから、商品学に対する検査の目が鍛えられます。これらの経験を踏まえて旅具通関部門で検査を行うと、同じ検査業務でもより正確性を意識するようになり、また、国際郵便物を検査して蓄積された多くの商品学を活かし、より迅速な判断ができるようになるなど、相互に良い影響がありました。

—— 旅具通関部門での勤務形態は二四時間体制で交代制勤務だと思うのですが、通常の日勤勤務と比べて苦勞していることはありませんか。

就寝時間が不規則になりますので、体調管理を徹底するようにしています。特に当直明けは心身共にリフレッシュできるように心がけ、次の日の仕事に疲れを残さないようにしています。

それから、苦勞とは違うかもしれませんが、通常の日勤勤務と比べて、家族へのケアも必要だと思っています。当直日の夜は自宅におらず、家族にとっても負担をかけているので、当直明けや休みの日には家族との時間を多くつくるようにしています。交代制勤務も悪い面だけではありません。当直明けの日は中の時間帯を有効に使えませんし、平日に休みが当たる場合は、混まない平日に家族と過ごす時間が多く取れるなど、良い面もあります。そして、税関は育児や介護などに対する理解が深く、年次休暇や育児に係る休暇も非常に取りやすい環境となっています。私も妻が二人目を出産するときに上の子の世話も含めて育児休業を取得したのですが、当時の上司が制度の説明をしてくれたり、育児休業にかかる計

画を立案してくれたりというサポートをしてくださったので、心置きなく休みを取ることができました。妻とともに今でもとても感謝しています。

—— 育児に対する理解がある職場とのことです。税関で働く女性が多いのでしょうか。

旅具通関部門では手荷物検査は男女関係なくできますが、女性旅客への身辺検査（ボディチェック）をする場合は女性検査官が行う必要があるため、そのような場面に対応できるよう全班に女性職員が配置されています。旅具通関部門以外にも活躍している女性職員は多いと思います。交替制勤務の職場は子育て中の職員の方にとって難しいところもあるかもしれませんが、先ほどお話ししたとおり、税関は育児に対する理解が深いのでチーム一丸となってお互いをサポートしています。

**不正を逃さないために知識の習得に励み続ける**

—— 仕事をする上で心がけていることはありますか。

相手の立場に立って考える、相手を思いやって動くということを一番心がけています。旅具通関業務では、大勢の旅客と接しますし、その他にも空港職員の方、空港に勤務する他省庁の公務員の方、航空会社の方などと連絡を取り合いながら業務を行うこともあります。当然我々税関の中でも、旅具通関部門以外の部門と連携して業務にあたっています。このように、たくさんの方と連携しながら業務を行っているので物事を円滑に運ぶためにも大事な心がけだと思っています。また、自分が仕事として行ったことが最終的に他の人にどんな影響を与えるかということも考慮して業務を行うようにしています。

—— 税関の仕事の醍醐味はどんなところですか。

覚醒剤や大麻、麻薬などの不正薬物やテロ関連物資の密輸を水際で阻止・摘発できるといところが税関業務の醍醐味です。税関業務の中でも最前線の一つである旅具通関部門で業務に従事していることは自分にとって誇りに感じています。

——これまで仕事をやってきて、やりがいを感じたのはどんなときですか。

これまでの経験で一番やりがいや達成感を感じたことは、複数の密輸犯がいる事件の対応をしたときです。先ほども触れましたが、通常、旅具検査で税関職員は一人で旅客対応を行います。しかし、この事件の時は自班のみならず他班からも密輸入事件が発生した際に対応する「機動職員」と呼ばれる税関職員を応援として派遣し、分けして複数の密輸犯に対応しました。税関職員同士の一体感を感じることができましたし、たとえ密輸犯が複数名いたとしても絶対に見逃さないという気概も感じられ、この時の対応が無事に終了した時は強い達成感を味わうことができました。

他にも、国際郵便物を検査していた際、税関に採用されて初めて摘発した物件が金地金でした。金地金を国際郵便で輸入するためには、税関に輸入申告をしなければなりません。それをすることなく消費税を不正に免れようとしていたものです。当時、金地金の密輸が横行しておりメディアの注目度も高かったことから、自分も摘発に携われたことがうれしかったのです。また、輸入してはならないもの一つとされ

ている「指定薬物」を見つけたときのことでも強く印象に残っています。その時は、毎日大量の国際郵便物を検査していたのですが、摘発に至らずなかなか結果が出ないと感じていたところでした。ですが、過去の摘発事例から隠匿手口等を考えながら粘り強く検査を実施したところ、指定薬物を発見・摘発することができ、とても安堵したのを覚えています。

——これまで苦労したこと、それをどうやって解決したか教えてください。

旅具通関部門や国際郵便物を通関する際に行う検査技法の習得はとても苦労しました。なぜかというところ、旅具通関部門では旅客である「ヒト」を相手としている一方で、国際郵便物では「モノ」を対象としているからです。両方ともそれぞれに幅広い知識・能力が必要とされ、それぞれに専門性があるため、それらの検査技法を習得するまで何回も先輩方に質問したり、先輩方が経験で培った検査技法を教授いただき、それを真似たりしていました。今でこそ、それら検査技法や知識を定着させることができているのですが、それができたのも先輩方が徹底的に教えてくださり、分け隔てなく

意見交換ができる風通しのいい職場であることが非常に大きな要因だと思います。また、先程も触れましたが、税関では研修が非常に充実しており、専門的な知識の習得に非常に役立ちました。加えて、英会話学校の通学補助等いろいろな自己啓発研修も募集されているので能力の向上や視野を広げるのにとっても助かります。また、同期の存在も欠かせません。新規採用職員研修と一緒に学んだ同期は、配属先が異なっても気兼ねなく相談できるかけがえのない存在です。自分が今いる部門では専門外で分からないことがあった場合、同期がその分野のエキスパートになっていたりすることがあります。そのようなときには気軽に聞くことができる、心強い仲間です。



パーサーカウンターで業務をする様子

「不正を許さない心」と「粘り強さ」を持って

—— 今後やってみたいこと、目標などはありませんか。

幅広い視野を持った税関職員として働きたいと考えています。現場経験としてこれまで羽田税関支署旅具通関部門と東京外郵出張所での国際郵便物の審査・検査を経験し、再びここ羽田税関支署旅具通関部門で勤務しています。異なる職場でそれぞれ業務経験を積んだ前後では、視野の広さが全然違います。ですので、特定の部門に固執することなく、新しい業務にどんどんチャレンジしたいと思っています。具体的には、海上貨物や航空貨物の検査をやってみたいですね。そこでの経験はさらに次へとつながる有益な実務経験として蓄積されていくと思いますので、是非とも勤務してみたいです。

—— 税関を目指す人たちにメッセージがありますか。

税関には様々なバックボーンを持った方が採用されています。通常の新卒の方以外

にも、他省庁や民間企業での経験を長く持った方が選考採用試験を経て税関職員となる方もおり、それまでの経験や知識を強みとして皆さん業務にあたられています。税関職員としての必要な知識、技能等については新規採用職員研修などで習得することができまますので、どなたでも安心して働ける環境だと思っています。

ただ、税関で働きたいと考えている方に心がけとして持っていてほしいことがあります。それは、「不正を許さない熱意」と「粘り強い心」の二つです。税関検査は、そうやすやすと結果が出るものではありません。しかし、継続していくことが絶対に必要です。不正を許さない高い倫理観を持ち、粘り強く検査を続けていく。これを積み重ねていくことで、自ずと結果は出ますのでこの二つは忘れずに覚えておいてほしいですね。

—— 最後に、国民の皆さまへのメッセージなどがありましたらお願いします。

税関職員は最初にお話しした三つの使命に基づいて、日夜問わず現場の最前線で業務にあたっています。我々税関職員が行う旅具検査は、国民の皆さま方の協力があったものだと思いますので、今後とも税関業務へのご理解とご協力をお願いします。

—— 本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

